



2024年3月期（第26期）決算の概要等について

株式会社札幌ドーム（以下当社）は、本日開催の定時株主総会、その後の臨時取締役会および臨時監査役会におきまして、以下のとおり2024年3月期（第26期）の決算を報告するとともに、取締役3名および監査役1名が選任され、就任いたしましたのでお知らせいたします。

1. 2024年3月期（第26期）決算概要

※百万円未満および千人未満切り捨て

○売上高	12億71百万円	（前期比17億4百万円減）
○経常損失	5億60百万円	（前期比7億54百万円減）
		※前期 経常利益 1億93百万円
○当期純損失	6億51百万円	（前期比7億71百万円減）
		※前期 当期純利益 1億20百万円
○総イベント開催日数	98日	（前期比26日減）
○総利用日数（設営撤去等を含む）	229日	（前期比9日増）
○稼働率	62.6%	（前期比2.3ポイント増）
○イベント来場者数	99万7千人	（前期比40.7%減）
○観光来場者・一般市民利用者ほか	9万7千人	（前期比12.7%増）
○総来場者数	109万4千人	（前期比38.1%減）

・新規自主イベントとして「全開エール」や、札幌ドーム開業以来初めてとなるフェス形式のイベント「SAPPORO MUSIC EXPERIENCE2024」が開催されるなど、コンサートやコンベンション、アマチュアスポーツの利用日数が増加したものの、北海道日本ハムファイターズの公式戦の開催がなくなったことが影響し、総イベント開催日数は前期比26日減の98日となりました。

・貸館事業・商業事業・広告事業を含むその他営業収益では大幅な減収となりました。

・販売費及び一般管理費については、経費削減を積極的に進めてまいりましたが、一方で、施設の効率的な運用のための備品購入を実施いたしました。また、固定資産の一部について札幌市に寄付及び減損処理を行いました。

以上のことなどから、売上高は12億71百万円、当期純損失は6億51百万円の減収減益となり、2021年3月期（第23期）以来、4度目の赤字となりました。

2. 役員一覧

代表取締役社長	山 川 広 行	
取締役副社長	石 川 敏 也	札幌市 副市長
常務取締役	藤 部 安 典	
取締役	落 合 重 之	（新任） 当社事業本部長（管理担当）
同	西 出 幸 広	（新任） 当社事業本部長（事業担当）
同	紫 藤 正 行	札幌商工会議所 副会頭
同	鍋 島 芳 弘	北海道電力(株)取締役常務執行役員
同	八 木 涉	北海道瓦斯(株)常務執行役員
同	堀 井 友 二	(株)北海道新聞社 執行役員企画室長
同	森 本 光 俊	サッポロビール(株)
同	木 村 平	（新任） 上席執行役員北海道本社代表兼北海道本部長
常勤監査役	池 田 浩 之	(株)電通北海道 代表取締役社長執行役員
監査役	草 薨 金 矢	札幌商工会議所 総務部付統括調査役
同	越 田 雄 三	（新任） 草薨金矢税理士事務所 所長
		(株)北洋銀行
		執行役員地域産業支援部長兼公務金融部長

3. 今後の取り組み

長らく札幌ドームを本拠地球場としてご利用いただいていた北海道日本ハムファイターズさまが 2023 年春に新球場へ移転したことに伴い、大きな経営環境の変化が現実のものとなりました。

一方で、公の施設である札幌ドームのあるべき姿を見すえ、未来に向けて札幌ドームの新しい価値を創っていくために、総力を結集して事業活動を進めているところです。多目的施設としての優位性を生かし、札幌ドームの新しい形を創り出していきます。

■今後の取り組みポイント

目指す将来像 「集客交流施設としての機能を高めること」「皆さまに広く活用してもらうこと」の実現のため、以下の取り組みに注力いたします

① 集客交流イベント

道内外から人を呼びこむ集客交流イベントを積極的に誘致・開催し、経済効果を札幌市内に波及いたします

② プロ・アマチュアスポーツイベント

多種多様なプロ・アマチュアスポーツを開催し、みる・するスポーツの更なる振興に寄与いたします

③ 子ども向けの取り組み

冬季間に子ども向けイベントを開催するなど、子どもたちに貴重な遊び場と特別な体験を提供いたします

④ 身近な活動拠点

市民や企業・団体の皆さまの身近な活動拠点として親しまれるよう、参加型イベントや企業・団体さまのインナー利用など交流の場としての活用を促進いたします

■収支改善の取り組み

前期（2024 年 3 月期）の当期純損失は約 6.5 億円となりました。これは札幌市への寄付および一部の固定資産について減損処理を行ったことによるものも含まれており、実質的な運営赤字額は約 4.5 億円となっております。この約 4.5 億円の運営赤字の解消を目指し、以下の取り組みを進めてまいります。

◇貸館事業の取り組み

- ・ イベント日程見込み 123 日(前期比+25 日)

◇広告事業の取り組み

- ・ ネーミングライツ
- ・ 新規広告枠の販売促進

◇経費削減の取り組み

- ・ 札幌市と作成した 5 年収支計画よりも経費を低減できている状況
- ・ 前期に固定資産の一部について札幌市に寄付および減損処理を実施し今期以降の減価償却費を軽減

上記に掲げた取り組みによって今期の黒字化を目指しております。引き続き、札幌市や関係事業者さまとの連携により、札幌ドームの魅力と価値向上のための取り組みを積極的に進めるとともに、一層の収入確保と収益率の向上を目指してまいります。

<資料>

■業績、利用日数・稼働率の推移

単位：	(百万円) ※百万円未満切り捨て				(日)	(日)	(%)
年度	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	イベント日数	総利用日数	稼働率
2001	2,245	123	357	256	80	177	58.2
2002	2,091	91	119	64	79	226	61.9
2003	2,226	195	239	136	103	221	60.4
2004	2,743	356	420	242	123	241	66.0
2005	2,883	335	402	233	123	267	73.2
2006	3,536	297	370	208	129	265	72.6
2007	3,676	452	541	317	141	266	72.7
2008	3,127	150	227	116	134	265	72.6
2009	3,694	383	458	166	133	261	71.5
2010	2,847	51	103	40	118	244	66.8
2011	3,617	362	413	232	138	279	76.2
2012	3,645	379	432	243	138	268	73.4
2013	3,315	122	160	74	134	271	74.2
2014	3,677	▲492	▲454	▲427	132	262	71.8
2015	3,894	413	447	394	139	285	77.9
2016	4,143	240	287	165	134	262	71.8
2017	3,889	184	229	163	133	271	74.2
2018	3,616	▲484	▲426	▲357	125	234	64.1
2019	3,972	229	410	188	132	256	69.9
2020	1,868	▲501	▲77	▲81	99	164	44.9
2021	3,185	277	390	224	115	253	69.3
2022	2,976	70	193	120	124	220	60.3
2023	1,271	▲672	▲560	▲651	98	229	62.6

※2014年度：大型ビジョンの更新により、開業以来初の赤字となりました。

※2018年度：野球用人工芝等の更新により、開業以来2度目の赤字となりました。

※2020年度：コロナ禍で利用日数・稼働率・来場者数が大幅に減少し、売上高および営業利益は開業以来最低（当時）となりました。

※2023年度：北海道日本ハムファイターズ移転に伴う利用日数および来場者数の減少のほか、一部の固定資産について減損処理を行ったため、売上高および営業利益は開業以来最低となりました。